

日本東洋美術史の資料学的研究(シ02)

目 的 近世以前の日本を含む東アジア地域における美術作品を対象として、基礎的な調査研究を行い、研究の基盤となる資料の整備を行う。併せて、これにかかる国内外の研究交流を推進する。

成 果

1. 美術史研究のためのコンテンツ(年紀資料集成)を作成するため1999(平成11)年以降の展覧会図録から年紀のある作品の資料を順次収集し、データベースソフトウェア FileMaker を使用して入力を行い、新たに400件を追加した。
2. 本プロジェクトにかかる研究会を外部の研究者を交え、行った。
3. 幕末期の日本製伏彩色螺鈿を対象に、2019(平成31)年1月27日~2月2日にタイ・バンコク都内のワット・ラーチャプラディット、ワット・ナンチャー、タイ国立図書館等において作品の熟覧調査及び写真撮影を実施した。
4. 平成29年度に引き続き、仏教美術等の光学的手法による東京国立博物館との共同研究を実施した。同博物館所蔵の平安仏画につき、可視光のみならず、近赤外線、蛍光、蛍光X線、透過X線などによる多角的光学調査を行い、国宝の平安仏画の中でもことに著名な、普賢菩薩像、虚空蔵菩薩像、孔雀明王像、千手観音像について、報告書を刊行した。

論 文・小野真由美、恵美千鶴子：「研究ノート『銅御蔵御掛物御歌書極代付之帳』の翻刻と外題」『美術研究』425 pp.21-23 18.7

・小野真由美、恵美千鶴子：「研究ノート『銅御蔵御掛物御歌書極代付之帳』翻刻」『美術研究』425 pp.24-34 18.7

・増田政史：「中宮寺文殊菩薩立像について一戒律と春日信仰」『美術研究』426 pp.1-14 18.12

・稲葉(藤村)真以：「韓国画壇の変遷」『美術研究』426 pp.75-92 18.12

・津田徹英：「研究資料 滋賀・浄厳院蔵 木造釈迦如来立像」『美術研究』426 pp.93-110 18.12

・勝盛典子：「伏彩色螺鈿再考」『美術研究』427 pp.85-108 19.3

発 表・小野真由美：「土佐光起著『本朝画法大伝』考一「画具製法并染法極秘伝」を端緒として一」第3回文化財情報資料部研究会 18.6.26

・二神葉子ほか10名：「ワット・ラーチャプラディットの日本製扉部材と伏彩色螺鈿に関する研究会」第4回文化財情報資料部研究会 18.7.30

・京都絵美：「絹本著色技法の史的展開について一仁和寺所蔵孔雀明王像をめぐる一考察」第6回文化財情報資料部研究会 18.11.27

・山本聡美：「病苦図像の源流一静嘉堂文庫蔵「妙法蓮華経変相図」について」第7回文化財情報資料部研究会 18.12.27

・相澤正彦：「静嘉堂文庫美術館本「春日曼荼羅」と高階画系」第7回文化財情報資料部研究会 18.12.27

・米沢玲：「二幅の不動明王画像」第9回文化財情報資料部研究会 19.2.28

刊行物・『東京国立博物館所蔵 国宝平安仏画 光学調査報告書』ライブアートブックス 19.3

研究組織 ○小林達朗、山梨絵美子、塩谷純、小野真由美、江村知子、二神葉子、小林公治、安永拓世、米沢玲、橘川英規、小山田智寛(以上、文化財情報資料部)、津田徹英(客員研究員)